

④ 将来を見据えたまちづくり

本市は、バブル期の余波を受けて一時人口が増加した時期もありましたが、近年は減少に転じています。

これは、地元で雇用場が少ないことから、多くの若者は道外や札幌市などの都市圏へ流出していることと少子化が大きな要因として考えられます。

生産年齢人口の流出は、出生人口が減って、人口減と高齢化を促進し、結果、域内の生産や購買力の低下を招き、雇用の場のさらなる減少、税収の減少など縮小への悪循環へつながっています。

元氣な北海道を築くためには、道内の数ブロックごとに活力のある経済圏を形成して、生産年齢人口の定着と生産額の拡大が図られるよう、これを支援する各種の施策と地域関係者の努力の積み重ねが必要と考えます。

◎西胆振地域のまちづくり

わたしたちが住むこの西胆振は、北海道の縮図とも言われるようにさまざまな産業が立地しており、時代の変遷を経て、幅広く優れた技術や知識、文化が蓄積されています。

これらの融合を図ることによって、それぞれの業種や生産・加工・流通部門の成長を阻む障壁を征服し、新たな分野への進出、より優れた産物や製品を生産・販売でき、雇用の場

も拡大するなど、地域の活性化が期待されますが、そのためには西胆振が一つのまちになって、行政と住民との協働の取り組みを進めることが最良の戦略であると考えます。

一つのまちになることによつて、従来の行政コストを大幅に削減することが可能となり、余剰財源をもつてこれまでできなかった分野への投資や新たな行政サービスの提供が可能となり、地域住民の福祉の向上につながるものと考えます。



▲第2回西胆振地域連携フォーラム

わたしたちの子どもや孫の時代を考え、これからのまちづくりの目指す方向について市民の論議を深めていきます。

主な施策

- ① 地域経済の活性化
- ② 住み良いまちづくり
- ③ 安心・安全なまちづくり
- ④ 都市基盤整備の推進

① 地域経済の活性化

北海道の経済は、個人消費の低迷や企業倒産の増加など、依然として厳しい状況が続いており、市内経済においても改善の動きを実感するに至っていません。

さらに、昨今の原油価格高騰により、ガソリンや灯油のほか、加工食品や日用品などの値上げが行われ、市民の生活は非常に厳しい状況に置かれています。

◎登別市産業クラスター形成計画

市内の経済活性化対策の一つとして、観光産業とほかの産業との連携により、経済の活性化を目指す『登別市産業クラスター形成計画』の実現に向け、引き続き登別市産業クラスター形成協議会の活動を支援します。

本年度は、地域観光の魅力を旅行者に紹介し、案内業務を行う新会社『登別ゲートウェイセンター』が設立され、事業が展開される予定であるほか、自然療法を医学的に活用した『ヘルスツーリズムサービス』の提供と観光・健康保養に係る人材育成を目指し、登別市産業クラスター形成協議会や大学の研究者、地域の研究機関が共同で行っている研究成果について、事業化するための調査を進めることとしています。

◎観光

登別温泉開湯150年記念事業を重点

とした宣伝を行い、白老町や西いぶり戦略的観光推進協議会と連携して誘客活動に努めます。

なお、カールス温泉サンライバスキー場については、修学旅行などの受け入れ増加を図り、安定運営に努めます。



▲修学旅行でサンライバスキー場を訪れた高校生

◎農業

良質な畜産物の生産振興を図るとともに、新たな加工製品の開発、観光地の利点を活用したグリーンツーリズム（農村交流型の旅行）の受け入れを推進します。

◎漁業

漁港と関連施設の整備促進を図り、衛生管理の行き届いた生鮮魚介類の出荷に努めるとともに、市・町民や観光客に対し、目や舌で確かめ買



▲整備が進む登別漁港

い求めることができる『海鮮いちば』の開設など、マリンビジョン（※4）の推進を図ります。

※4 漁港のにぎわいを目指したまちづくり